

埼玉県川越市・グリーンツーリズム整備推進事業

関連する
SDGs
ゴール

2
気候を
ゼロに

8
働きがいも
経済成長も

12
つくる責任
つかう責任

17
パートナーシップで
目標を達成しよう

背景

経営耕地の減少 2,449ha (H27) → 1,976ha (R1) 高額な農業機械
高齡化・後継者不足 農業従事者平均60.9歳 厳しい労働環境
農業収入の低迷

課題

このままでは、都心30キロ圏に残る川越の農業の存続が厳しい

目的

市民の農業への理解を深め、市に対する愛着につなげる
都心からのアクセス性を活かした交流人口の増加につなげ、将来的な農業の好循環を生み出す

これまでの
取組

- 収穫体験などの農業体験
- 市民農園・体験農園整備（完了）
市外の方も利用でき、全国でも最大規模の区画数の市民農園と、四季を通じて農業体験ができる体験農園を拡張整備。
- 川越市グリーンツーリズム拠点施設リニューアルオープン（完了）
市内外の人が「農のある生活」を楽しむ場、農業者の研修の場、グリーンツーリズムの拠点として整備。



事業
内容

- キャンプスペース整備（予定）
キャンプスペースを整備し、市内だけでなく首都圏からの利用者も見込む。
- 大人から子どもまで楽しめる、学びある農業・食に関する体験
- 遊歩道などの周辺整備（予定）
- 農業に関する情報収集・発信
- 中心市街地との観光連携（観光の広域化・滞在時間延長）

得られる
成果等

寄附を
する
メリット
等

川越市の農業・農産物
に興味を持つ人が市内
外で増加

川越産農産物の消費
拡大、体験や農園で
農に触れる人が増加

農家の収入増加
新規就農者の増加

川越の農業を将来
に継続させる
好循環を
生み出したい！！

企業に求めるもの

- ・ 事業展開のための資金提供
(企業版ふるさと納税)
- ・ これから整備を始める予定の「キャンプ場」
や、農業体験への事業提案
- ・ 川越農業存続のためのアイデア

企業のメリット

- ・ SDGs、社会貢献企業としてのPR
- ・ 寄附を通じた「川越のグリーンツーリズム」
への参画

企業版ふるさと納税人材派遣型

- ・ 令和4年10月より1名、人事交流を実施。

日本農業遺産 武蔵野の落ち葉堆肥農法

◇平成29年3月 日本農業遺産認定



火山灰土に厚く覆われ荒れた土地に、江戸時代から木々を植えて平地林を育て、落ち葉を集めて堆肥として畑に入れ、土壌改良を行うことで安定的な生産を実現し、その結果として景観や生物多様性を育むシステムが、今なお継承されている。

出典：農林水産省ホームページ
https://www.maff.go.jp/j/nousin/kantai/giahs_3_101.html

拠点付近の魅力



伊佐沼公園



伊佐沼
東岸花畑



伊佐沼

【お問合せ先】

企業版ふるさと納税について 政策企画課 049-224-5503
グリーンツーリズム整備推進事業について 農政課 049-224-5939